

会 議 録

会 議 名	第6回 三芳町学校再編等審議会			
開 催 日 時	令和6年4月16日(火) 午後5時30分開会 午後8時30分閉会			
開 催 場 所	三芳町役場3階 会議室			
出席者氏名	会長	佐藤 和秀	委員	松元 優子
	副会長	宇佐見 宏一	委員	高橋 敦士
	委員	岡野 雅一	委員	南雲 友香
	委員	細谷 拓郎	委員	曾我 幸也
	委員	田畑 裕孝	委員	織部 隆
	委員	松村 明子	委員	吉村 豪
欠席者氏名	委員	大澤 純之	委員	武田 和広
	委員	明石 沙絵子	委員	清水 恵美
	委員	西内 一夫		
事 務 局	学校教育課			
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事(説明・協議事項) (1) 前回会議録について (2) 協議 4 諸連絡 5 閉会			
会議経過	別添のとおり			
会議資料	・アンケート結果 ・上富小学校、三芳小学校の存続を求める要望書(写)			
会議録の確定	令和6年5月21日			

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
会長	<p>1 開会 2 会長あいさつ</p> <p>(事務局より、委員の交替や委嘱に係る該当事由の変更について報告)</p>
会長	<p>3 議事(説明・協議事項) (1) 前回会議録について</p>
会長	<p>会議録について、事前にご覧いただいたところだがご意見は。</p> <p>(発言者なし)</p>
会長	<p>では、前回の会議録は承認ということで、事務局の方で公開をしてもらおう。</p>
会長	<p>(2) 協議</p>
会長	<p>上富小学校、三芳小学校の存続を求める要望書が審議会に提出された件について、事務局より説明を。</p>
事務局	<p>上富在住の方より「上富小学校、三芳小学校の存続を求める要望書」が、本審議会宛に提出された。机上に要望部分の写しを配布し、署名部分については、コピーを回らせていただいているので確認いただきたい。内容としては、町が2021年に出した「公共施設マネジメント計画」は財政の視点から生じている計画であり、上富小学校の1クラス約20人は学習するうえで理想的、居住地に近い学校の方が登下校を含めて安心安全、地域住民にとっても交流の場や避難場所で重要な拠点であることから、上富小学校、三芳小学校の存続を求める、というもの。なお、251名分の署名があり、うち39が上富外の方、3月末時点での上富の人口から鑑みると、上富地区の7%の方の署名をいただいた。</p>
会長	<p>今回、保護者アンケートの結果もあるので、それと合わせて考えていければと思う。続けて、アンケートの結果について説明を。</p>
事務局	<p>結果として、対象者に対して51%の方の回答だった。賛成が24%、どちらかといえば賛成が17%、どちらかといえば反対が19%、反対が33%、わからないが7%。小学校在籍世帯に絞った回答率は57%で、賛成18%、どちらかといえば賛成15%、どちらかといえば反対23%、反対が36%、わからないが8%。未就学児世帯の回答率が39%で、賛成40%、どちらかといえば賛成20%、どちらかといえば反対6%、反対27%、わからない7%だった。そのように回答した理由を、ある程度カテゴリーに分けて記している。</p>
会長	<p>本審議会では昨年度の5回の審議会の中で、今後児童生徒数が減少していく中で学校をどのようにしていくか、学習環境や学習活動、人間関係の</p>

	<p>充実を図る視点、また児童生徒を支える教職員の働き方という視点さらにはその背後に関わる財政的な視点で、いろいろ検討いただいてきた。上富小学校のいわゆる現役世代と、今後の就学予定世代へのアンケート結果も出たところ。今後は、諮問にあるように、具体的に上富小学校、竹間沢小、中学校3校についてどう考えていくかという結論を出そうと、話し合いを進めたい。事前に配布したアンケート結果を踏まえ、まずは各委員にアンケートの結果を見た上での今後上富小学校の在り方について、意見をいただきたい。</p>
委員	<p>小学校在籍世帯、未就学児世帯、それぞれ結果が出ているが、数字だけだと何とも言い難いという印象。記述を拝見し、やっぱり安全面、または子どもの人間関係などいろいろと心配事があるということは伝わってくる。この辺はこのまま受け止めるというより、結果は出ていないが、もし統廃合を進めるならば丁寧な説明が必要だと思うし、心配している点も検討しなくてはいけないと感じている。それと、要望書。この要望書は要望書でしっかりと受けとめるべきだと思う。一方で、この要望文に書かれている内容には気になる点もある。例えば、「学校の統廃合は財源の視点から生じている計画」、これはいいが、その後、「子どもたち一人一人の個性を尊重し人格の完成を目指す教育の目的と照らし合わせても、統廃合が優れた方策であるとは言えません」と書かれているが、この根拠が私にはよくわからない。教育の目的は人格の完成にあるが、大きい学校だと駄目、小さい学校だと駄目だという話になってくるかと思う。これは根拠がよく理解できないなというのが1点目。それから、「上富小学校は1クラス約20人と、学習する上でも理想的な人数」とあるが、理想的な人数が何人なのかは、特に定められてないはず。20人が最適かということ、メリットもあればデメリットもある。その点で疑問がある。また、私が勘違いしていたら申し訳ないが、小中一貫校にすることは反対だ、ということなのだが、この話題、全く議論が起きていないし、そういう議論ではない。勘違いされてる部分が多々見受けられる要望書だと受け止めた。</p>
委員	<p>意見の賛成反対の数は数字で表れているが、どのような感じなのかも含めて考えると、何を重視するのか。この結果だけで全てを決めることは難しいと思うが、教育効果と人間関係というところに関しては、賛成の意見が多いと感じた。一方で、通学の安全面という部分に関して、やはりこれだけ広い範囲のところは1校になることに心配な部分もあると思ったので、この結果を参考にしながら、検討していく必要があると感じた。</p>
委員	<p>先ほど言っていた、要望書の中に3点挙げられている点。例えば中学校は話題にも出ていないにも関わらず小中一貫校については反対です、とある。上富小学校の統合に反対というものと、分けて出していただかないといけないのではないかと思った。上富小の方から通学する子どもたちがやはり遠いので、通学面が心配。歩いていく小学1年生が、学校が3時に終わっても1時間近く歩いて帰ると真っ暗になってしまう。小さい子どもがいる親としては心配なので、それ相応のバスを出す、バス停も丁寧に遠くの方まで設置するような親切さが、統合する上で必要かと思った。教育効果についての議論は、先ほど言われたように多い人数が駄目、</p>

	<p>小さい人数の方がいいという話ではないと思う。もし少人数が良ければ、三芳小に統合した際に少人数制にし、先生を1人多く置くなど、それは後でもどうとでもなる。人間関係が心配というのも、他の小中学校は多いところへ行っている。メインで話さなくてはいけないのは、通学の安全性。あとは、住人にとっては残したいとか、いろんな希望があると思うので、その気持ちを汲んだ上での丁寧な説明なり、こうやって考えているという話し合いの場のようなものを設けた方がいいかと思った。</p>
委員	<p>アンケートを見たところ、反対の方もおられるし、賛成の方もおられるので、いろいろ難しいと思った。</p>
委員	<p>かなりフラットなアンケートになったと思う。ポイントがいくつかあると思っており、まず回答率が50%ということ。おそらく答える気がなかった方もいらっしゃると思うが、答えられなかった方もいらっしゃるのではないかとこの部分は頭の片隅に置いておかなければと思った。インターネットのアンケートで紙がなかったのがこうなったのか、もしくはかなりフラットなアンケートだったので、今までのアンケートに比べて、極端な話、統合に反対と賛成、イエスカノーみたいな形の強い選択をせざるを得ないような印象を持った方もいらっしゃるのかと。個人的には答えやすいアンケートになったと思うが、人によっては賛成としたら統合されるのかとか、反対としたら統合されないのかなどの思いがあつての50%なのか、その辺何か分析ができれば、今後声を上げられなかった方の意見も何らかの形で拾い上げていく必要があるというのがまず1点。中身に関して、細かな数字の賛成、反対もあると思う。ざっくり言うと、概ね賛否両論のものになっていると思う。なおかつ、各コメント、自由記述に近い欄が2つあるので、その中身を見ると、統合に賛成としているにも関わらず、中身を見ると統合すると心配という意見が書かれていたり、逆に統合には反対と書いてあつたりするが今のままだと少なすぎてどうなのかといったものもあるので、大事なのはこちらの回答欄の方。それぞれのご意見が一番大事なのかと思っている。ボリューム感としても、大体合併したい、あまりしたくないが半々ぐらいというのが、まず大きく押さえるべきなのかということだと思う。細かな傾向としては、教育的効果のところもある。教育的効果として、標準校が良いと思う方と、小規模校がいいと思う方がいる。それから、通学路に関しては、歩くのはほぼ無理だという結論を導き出してもいいのかと。このアンケートの回答を見る限り、遠い方、少なくとも統合した上で、歩いて子どもを通わせるという意思を表明する方はいない。スクールバスありき。あくまでもこのアンケートの答えでは。そのような分析を個人的にした。細かい議論をする際には、一旦全部送っていただいたアンケート結果での議論も必要なのかというふうに感じた。</p>
委員	<p>まず感じたのは安全性というところがとても大事になってくるというところ。もし統合した場合には、かなり遠い場所から通学するということを想定することになるので、時間的なものがどのぐらいなのか、そこは感じる。今、上富小学校の一番遠いところから通ってくる子どもたちの班、ちょうど今年度1年生がいて、3キロ弱歩いている。その子たちが</p>

	<p>8時前に学校に入ってくるということは、7時過ぎには準備して、出てくるということ。時間的なものもだが、体力的なもの、坂を上って学校に到着するという通学をしているが、それから考えると、もし統合した後、スクールバスを使つての通学が可能であれば、便利になるのではというのを感じているところ。それから、統合した後の教育に関して、今より効果が出ればもちろんその方がいい、期待できるところだと思うが、今、一番多い学級が21人、少ない学級が9人というクラス。少ないからいいということももちろんあるが、頑張ってもできないこともある。統合しても子どもたちにとってメリットが増えるということであれば、それはそれでいいと思う。このアンケートだけだとなかなか見えないところだが、その後のことが少し見えると変わってくるというのを感じた。</p>
委員	<p>このアンケート結果を見て最初に感じたことは、自分がこの会に参加したときとアンケートは同じような意見だということ。わからない。全く情報のないところで、統廃合についてあなたはどう思うかというアンケートが回っている。あまり情報が多いと、情報によって意見が左右されているかもしれないので、情報のないところでの第1回目のアンケートはいいと思うが、心配していることで一番多いものが、どうやって登下校するのかというもの。この審議会でもスクールバスという案が出ていて、他の委員もスクールバスありきだと話していたが、そもそも三芳町の中で歩いて帰るまで小学生が3キロ程度ということで、それが上富地区にあることを承知の上でこの会議もしてきたと思う。アンケートをこれで終わりにするのか、それとも再度アンケートをするのかというのものもある。この審議会でも情報を共有し、例えばスクールバスありきの案が出ているがどう考えるか等、スクールバスだけではないが、ここで協議したこんな案が出ている、それについて、それを承知の上で次のアンケートをと言うと、全く違った意見がたくさん出てくると思う。登下校についての心配、今、歩いて上富の小学校1年生が3キロあるというのは大変。だが、それは登下校をバスでやれば解決すること。このアンケートで、自分が考えていなくてびっくりしたのは、参観日等、親が出なくてはいけないときに車で行けるかというもの。ここでは全然協議していない、議題にも出ていなかったこと。アンケートをとってよかったと思うのは、そういういろんな意見が出たこと。自分では、このアンケートを経て、ここで協議して、さらにもう一つ進んだアンケートとか、アンケートじゃなくてもいいが、地域の意見をいづれかの形で取り上げていただけると嬉しい。</p>
委員	<p>反対意見の中で、みなさんが心配に思っているのは、通学面と少人数から大人数になったときに適応できるかというところだと思った。もし統合を進めるのであれば、大人数で適応できなかった子のケアをしっかりと考えていかなければいけないというのと、統合しないのであれば、上富小学校のような少人数のところへ、今の大人数の学校に通っている子が通える制度というのを考えてもいいかと思った。</p>
委員	<p>まずは、要望書、署名に関して、かなり気になることがあった。内容については先ほど他の委員からもあったように、この審議会でも話されていないようなことが断言されているところがあると思う。また、署名欄を拝見</p>

した。上富中心で回られたのだと思うが、かなり問題だと思ったのが、おそらく1軒回られて、誰か捕まえて家族全員分の名前を書いてくださいで集めた署名だと思われる。なぜかというとな筆跡が全部一緒。その中に現在日本にすら住んでない人、アメリカ在住の友人の名前まで書いてあった。ご両親が書いているのかもしれないが、私、今までの人生の中で、何回かこのような署名活動、街頭署名活動等をやったことあるが、この署名の集め方は署名と言えないと思う。一人一人自筆で書いてもらう、そしてその数を積んでいく。これが署名のやり方、意見の数を集めるやり方であって、家々を回って1人捕まえて家族全員の名前を書いてというのは署名にはならないと思う。署名のやり方も決まりなんてないのかもしれないし、これは私の考えだが、この署名は大問題だと思っている。そのような署名だと思って私は受けとめた。本題のアンケートに関しては、割れたな、というところ。賛成の意見も反対の意見も、本当に大事にしなければいけない状態だと思う。全て読ませていただいて気になったのが、反対意見。通学に関する不安が多いという印象を受けた。これに関しては、私も子どもがいる。もし統合があったら、通学の不安がある。やはりスクールバス等はマストだと思っている。この審議会の中でも、もし統合するのであればスクールバスも必要というような方向で話されてきていると思うので、反対意見をおっしゃった方の通学に対する不安というのは解消できる問題かと思う。全体の印象として、賛成意見はかなり論理的な意見。反対意見は上富小学校がなくなって寂しいという気持ちが目立つ印象。私も上富小学校に6年間通った人間として、それは寂しい。だが、寂しい気持ちとともに、これからの世の中を作っていかなければいけないという事実は切り離して考えなければいけないと思っている。避難所や地域のコミュニティの場というワードもかなりあったと思うが、これもまた切り離して考えた方がいいのかと思う。跡地利用に関しては、まだ全く話し合われていないこと。防災拠点等になれば嬉しいという住民としての意見もあるが、それは行政の方にしっかり考えてもらえれば良いと思っている。委員もおっしゃっていたが、アンケートがフラットな状態で取れ、こんなに記述欄が埋まるとは思っていなかったもので、地域の住民の皆さん、非常に関心が高いことなのかと思ったので、この審議会、非常に大切に、責任を持って務めさせていただきたいと思う。

委員

昨年まで一番大きな、人数の多い小学校に在籍していた。前回等でもお話ししたが、人数が多いことで、子どもたちが揉まれながら育っていきけるような環境もあるのかと思っている。教える教員側も人数が多くなるので、教員の中でも切磋琢磨しながら、教育効果を上げるために日々研鑽、研修等も進めていけるというようなところを見てきている。今、上富小学校は全校児童が100人を切っている状況、藤久保小学校は700人オーバーというところで、行事等も子どもたちが多くと様々な取り組みも見られ、そういったところで、教育効果も高かったというふうを考えている。クラスの人数については、小学校5年生まで35人がマックスなところまできているので、来年度から1年生から6年生まで、全ての学年が多くても35人学級になっていく。その中で藤久保小学校のときもそうだったが、少人数クラスというような形をとりながら、学習面については、進度や子どもの理解度に合わせ、算数や国語等、クラスをさらに細分化して、授業を進めて

	<p>いる。人数が少なければ教育効果が高まるというところは、各小学校、そういった少人数指導というところで努力はしているところ。一番多い状況でも半分に分ければ17人ぐらいで教えられる。そう考えると、上富小学校の20人クラスよりも少ない人数というような状況は生まれる。先ほどからある通学の面、教育効果の面で丁寧な説明をさらにしていければ話は進められるかというふうにアンケート等を見て感じているところ。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、要望書の件。PTAをやっている、要望書に係る署名がポストに入っているが、あれは何かというようなことを聞かれた。知らなかったので話をしていないが、アンケートと同じような時期だったので、誤解を招く、混乱があったのかもしれないと思っており、それがアンケート結果の回答率51%に結びついたかもしれない。ちょっと少なかったかという印象。先ほど委員からもあったが、反対意見はちょっと感情的な部分、やはり親御さんとかに聞くと、なくなると寂しいという意見もあった。そこはもうそれとして見ていいかと思っている。前向きな意見も多い。このアンケートもだが、もう上富小学校はなくなるのでしょうか、という方が今すごく多く、何をやるに対しても少しネガティブになっているところがある。なので、方向性というのは示していかないと、噂ばかり流され、何かやるに対してもネガティブな面が勝ってしまっているような状況が見受けられるので、今日は学校再編等審議会としても方向性を示していただきたいと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>私も一委員としてアンケートの結果等を見て、まず一つ、現役世代と今後就学を予定している世代とでは若干感覚が違うのか、というのがあった。実際に今、子どもたちが通っている保護者の方からは、卒業までは、とか、今通っている学校がなくなって寂しい、というような意見があったと思う。反面、これから入学を迎える保護者の方には、こんなに少ない人数の中でというような思いもあった。その中で一番多かったのが、登下校の安全、通学に関しての手段ということだと思うし、付随して、保護者が参観のときに車を使えるのかというようなこと。その辺は、実現しなければいけない条件として出していくべきものではないかと思う。これはちょっと別として、一番考えなきゃいけないのは子どもたちがどう豊かに暮らすか、人間関係を育むか、ダイナミックな教育活動を展開することができるかという条件から考えていくということ。学習をするには35人で一斉指導するよりは、少ない人数の方がよりきめ細かいこともできると思うが、先ほど委員から出てきたように、少人数指導というのは、クラスの人数が少ないというわけではないと思う。それは授業のやり方等々でできていくのではないかと思っている。一方で、新年度を迎えて単級の学年の先生に聞いたところだが、4月8日から学校がスタートし、いろいろなことを進めていくのだが、1学年に1人の先生でその学年を担当するというのは、やっぱり大変。皆さん相談すればいいじゃないかと言われるが、それぞれの先生が担当している学年もある。先が見えないところで、隣の学級の先生、その内容がわかる学級というのがあると、相談していく中で教育活動、学級経営、学年経営が進められていく。子どもたちだけではなく、自分も教員経験者でついつい教員の立場で言うってしまうのだが、そういう意味でも、子どもたちに豊かな教育活動を経験してほしい、その豊かな教</p>

委員	<p>育活動を提供する教員や職員側も人数があった方がいいのかというのは感じたところ。その他のご意見として、PTAの負担や避難場所などの跡地利用ということがあったが、これについてもこういうふうを考えているという説明を付け加えていくことが必要かというふうに思った。アンケートの結果で賛成が100%、反対が0%、逆に反対が100%、賛成が0%でないのは当然だと思う。今後について、上富小学校をどうしていくか、それに必要な条件、これは絶対に確保しなければいけないというところを、ここからは少しアンケートだけによらずにご意見いただければ。</p> <p>アンケートについてもう一度確認したい。複数の委員から、反対あるいは不安に思う方のご意見に感情的なものがあるのではないかと、ネガティブなものがあるのではないかとというお話があったが、個人的にはそれは違うのではないかと思う。寂しいという思いが感情的かどうかは難しい話もあるかもしれないが、全部の回答を見ていったときに本当に反対もしくはやや反対されている方が感情的な意見を書かれているとは感じない。ランダムで見ても、確かに上富小学校が好きだからなくなることが悲しいと書いてある方もいるが、少人数での学習にとっても意味があり、先生と生徒の関係性も全学年でとてもよく、なくしてはいけないという意見は、感情的な意見でも何でもない。逆に言えば、どちらかといえば賛成という方で、なくなってしまうのはとても悲しいが、という意見もあった。このアンケートの分析は、受け取る側がフィルターをかけずに判断をしていかないといけない。どうしても前提条件を抱えてしまっている。基本方針が出ているし、世の中の的には少ない生徒の学校は統合して合理的にやっていかなければいけないという前提条件がどこかにあるので、寂しいというものが感情的というふうに感じてしまうところもあるかもしれない。もう少しフラットにアンケートの結果を受け止めるべきなのかと。学校の統廃合に対して関心を持っていない方にとっては、自分の子ども、自分の行っていた学校がなくなるということに関して寂しいと思うのは、感情というか、それも一つのロジカルな話。なぜその学校がなくなるのか。わからなければ寂しいし、これは感情というよりはロジック。なぜなら理由がわからないので。それも含めて、賛成派の人がロジカルで反対派が感情的だとか、賛成派の人が感情的で反対される方がロジカルとか、そういうことを雑にまとめるのは間違っているのではないかと私は思う。あくまでも一人一人の方がどういうふうに言っているか。それをきちんと受け止めなければいけない。なおかつ、ここからは私の意見だが、こういったアンケートを取ってこのような回答が出てきた以上、町はこれに応えなければいけない。聞いてしまったので。聞いてしまった結果、要望が各保護者の方から上がったという状態だと今受け止めている。要するに標準校、合併してほしい、合併がしたいというよりは、目的としては、大人数の学校で自分の子どもたちを学ばせてあげたいという要望が上がっている。一方で、いわゆる今のまま、少人数の学校を意味するのか、ただ単に上富小学校を意味するのか等細かいところはあるだろうが、要するに今現状のまま子どもたちを育てたい、子どもたちに学んでほしい、という要望が上がっている。統廃合関係なく、安全に負担なく通学させたい。おそらくこの三つの要望が、今回のアンケートによって顕在化した。これから、この三つの要望に町が応えられるのかということ議論するのが、この場のあるべき姿なのかと個人的には感</p>
----	--

	<p>じている。場合によっては、適正配置関係なく対処できることも含まれていると思う。先ほどの話で驚いたのは、上富小では現時点で3キロ弱歩いている1年生がいるという。その時点で適正配置を超え、本来だったらすぐにでも解消しなければいけない問題じゃないかと思う。距離の話の後で詳しくさせていただこうと思っていた。話をアンケートの方に戻すが、このアンケートの結果を、賛成の方がこうで反対の方がこう、それは感情的、ロジカルみたいなところを認定するのは不適切ではないのかと思った。</p>
会長	<p>ここはアンケートを見ていただいて、それぞれの感覚、感想の部分になるのではないか。ここにいる委員さん、その人数の分だけ解釈が違ってくると思う。それを踏まえ、どうしていくかということを考えなくてはいけない。一番大事なものは何かというところ。</p>
委員	<p>皆さん思われていることだと思うが、通学方法。もし統合となった場合、スクールバスはマストだというのは出してしまっているのではないかと。私自身もスクールバスがないと不安が大きい。アンケートを見ても、子どもの健康のために4キロ、5キロ歩かせろという意見はない。そういう意見があれば尊重すべきことだが、やはりスクールバスは欲しい、通学が遠くになってしまうという不安もあるので、「もし統合という形になった場合にはスクールバスを出す」というのは、今の話の中で一番近い一つの方針なのかと思うがどうか。</p>
会長	<p>以前もスクールバスのこと、予算的なことも含めて少し触れ、町としては維持できる、していくというところだったと思う。停留場所や運行時間、運行の方法等については別途細かく詰めていくことだが、スクールバスを確保するという点に関しては、事務局よいか。</p>
事務局	<p>事務局としてはやるべきものと考えている。</p>
会長	<p>委員のみなさんも、その前提を確認いただいたということでよろしいか。</p> <p>(委員了承)</p>
会長	<p>今後もクリアすべき条件が出てくると思うが、では、上富小学校をどうするかというところはいかがか。</p>
委員	<p>先ほど言った通り、ここで一番大事な点は賛否両論であるという点。今までの審議の中で得られた知見としては、標準校、小規模校、それぞれメリット、デメリットがあり、どちらがいいという話もできないというところは合意していただけたところだと思う。その上で、甲乙つけがたい教育環境がある中で、半分の方は標準校がいい、半分の方は小規模校、具体的には上富小がいいということが最新のわかっている部分。回答率は50%だが、おそらくそれが実態に即している話だと思う。それを一本化することが子どもたちのためになるのか、議論はそこかと思う。これが7対3とかだと微妙だが、8対2とか9対1ぐらいになってくれば、公共の福祉と</p>

いう考え方もあり、どちらかにしようみたいな話も審議できてくると思うが、少なくとも現時点ではフィフティフィフティ。小学生在籍世帯と未就学児世帯の違いは若干あるとはいえ、大体半分半分ぐらいと考えたときに、今このタイミングで一つにするのか。10年後、本当に三芳町の人口も減り、上富小も全校で20、30人しかいないような状況になってくると、また住民の方や保護者の方の意見も変わってくるだろうし、もう少しいろんな方向性が出ると思う。今、100人弱。学校としては成り立つ規模であり、半分の家庭はこのままでいいと言っているというような状況の中で、この1年ぐらいでどちらかに結論を出し、この後に2、3年かけて統合する意味があるのか。今、このまま上富小に通いたいと言っている子たち、そのご家庭の人にとって、本当にそれはいいのかというのが個人的には強い思いとしてある。町として、スマートインターもフル化し、道の駅構想もできている。世界農業遺産もあり、上富地区含め、三芳町を発展させていこうというのが、この前の町長の施政方針演説にもあった。各課の方に聞いても、何としてでも発展させていきたいという強い意志を感じる。これから東京一極集中になっていく中で、三芳町のポテンシャルは本当の過疎の村のような流出が止まらないというような地区ではないはず。これから本当に右肩下がりで子どもたちが減っていくかどうかはまだ微妙な段階で、果たして大ナタを振るい、場合によっては統合という形に行ってしまうのが、多くの子どもたちのためになるのかというのは真剣に考えなければいけないと思う。予防的措置として、これから減っていったときには統合が必要かもしれないという議論も当然必要だと思うが、残り1年で結論を出し、場合によっては3年後、4年後に上富小がなくなり、場合によっては5キロ、6キロの距離を小学校1年生が、もしかしたらバスはあるかもしれないが、行かせるだけの価値があるかどうかを、きちんと考えるべきかと。大事なのは、このタイミングで。私も審議をして、最初は統合なのか、それとも統合しないのかというふうに考えていたが、どちらかという今結論を出すべきタイミングなのかというのが、非常にここ何回かの審議を経て、私の中で大きな疑問になっているところ。仮に統合しなくてはいけなくなっても多分今ではないのではないかというふうに感じている。

委員

アンケートをもとにということが進んできているが、確認し合っておいた方がいいのが、このアンケートはどの程度有効なものなのかということ。議事録を見ていただければわかるが、私はこのようなアンケートを取る際、人は情報をもとに物事を判断するので、その情報が必要だというスタンスで意見を申し上げた。一方で、情報なしで、まずは感覚的なもののアンケートを取る方がいいという意見も出された。結果、その感覚的なアンケートを今回取ったのだと思う。委員もおっしゃっていたが、スクールバスを町で用意するという情報を基にしたアンケートにすると、また数値も変わってくるかもしれないし、もう一度しっかりとした情報を提供した上でのアンケート実施というのも、時間がかかって厄介かもしれないが、やってみるというのも一つの選択肢かと思っている。この段階で、統廃合するとかしないとか、または今がその時期ではないとか、今その3択になっているが、その3択でさえ、急いでこの一つのアンケートで決めてしまうのではなく、もう少し丁寧にやっていくのも一つの方法かと思う。

委員	<p>上富小学校で6年間過ごした。小学生だった頃は、1クラス大体37とか38人でギリギリ1クラスになったと思う。一つ上の学年までは2クラスあった。私が小学生の頃は、クラス替えも可能な学校だった。その上富小学校を知っている身としては、今の状況、この人数は見るに堪えない。うちの子の話を聞くと、小学生なので遊ぶのも男女別に分かれる。私達の頃は、男子が20人ぐらいいたので、遊べる友達があればチャンス、男子10人ぐらいなんですよ。そのチャンスを今のこの現状で奪ってしまう、なくしてしまっているというのは親として非常に自分の経験からしても悲しい。昔からの流れを見た上で、もうこの辺で統合なのかという考え方がある。ここで統合しなくても、いずれ統合のときが来ると思う。そのときにまたこのような審議会が開かれ、統合に対して意見を出し合って決めていくと思うが、私は未来の人たちに負担をかけたくない。決めるのであれば、ここで決めたい。私達の責任で。私見だが、日本人は物事を決めるというのはなかなか苦手な民族だと思っている。本当にギリギリのアウト、完全版の直前ぐらいにならないと何か踏み切れないというところは、あるのかと思う。それは日本の歴史を見ても、外圧によっていろいろ変わってきたという事実もあると思う。なので今、先延ばしにしないで、私達の責任でしっかりここで決めたいと思う。このような考えを決めましたよというのを未来の子ども、そして未来の大人に対して、私はしっかり自信を持って、胸を張って語っていきたいと思う。いろいろ意見はあると思うが、上富小学校に通う子どもの親の今の意見。</p>
委員	<p>私も上富小学校に子どもが通っていて、自分も通っていた。やはり、人数が減ってきているというのは実感としてある。上富地域は、人数が爆発的に減ることも増えることもないと思う。今は、なだらかに減少していると言うのが適正なのかもしれない。そうやって来ているのはもう感じているので、先ほども言ったが、方向性を決めていただかないと。今、地元に戻ってきて子どもを産んだ親に、上富小学校ってなくなるんですよねという話もされたし、今度その兄弟が帰ってきてこちらで子どもを産んで通わせるという選択もなくなるというのを少し感じているのもある。アンケートもだが、やはりネガティブな意見が多い。上の世代の方との話の中では、やっぱりなくなると寂しいというような意見が多かったし、そういう声を肌で感じるが多かったのは事実。なので、私も先ほどの委員と同じ意見で、ここで方向性だけは決めていただきたいと思っている。決めるべきであると思う。意見がまとまらなくなるが、先延ばしするのはよくないと思っている。方向性だけはしっかり決めていくべきだと思う。</p>
委員	<p>アンケートの意見もここでの意見も、多数であれ少数であれ、全て尊重して取り扱う必要はあると思う。統合するのであれば、いざ子どもが本当に少なくなってから審議会をまた開いて決めるのかというのが私の疑問点。今ここの委員、有識者、教育部門の方も含めていらっしゃる中でまとめようとしても、1本にはなっていない。期間も相当経っているが、まだ1本になりきれない。そんな中で、本当に子どもが少なくなると、にっちもさっちもいかなくなってから決めるのではなく、今が検討していくには一番いい時期だと思っている。上富小学校だけの話でいくと、自分は少年野球を通してずっと前から上富小学校の皆さんとは付き合っている。1学</p>

年、ものすごく少ない中でも一つのチームを作り上げて、上富の地域の方は頑張ってくれている。そういう点はすごいと思うし、郷土愛もすごいし、残せるものなら当然残していった方がいいが、子どもがだんだん少なくなってきている時期で、アンケートの中でも反対も賛成もあったが、情報を十分提供する。ここで進めると決定しても、今すぐやるわけじゃない。例えばスクールバスの問題、例えば上富小学校を三芳小学校に統合するにしても、受け入れ側の設備の問題も含めて、1年や2年じゃできない。この意見をまとめたとしても、本当にできるのは、もしかすると4年か5年後にまとまるのかもしれない。そういうことを考えると、今ここで真剣に検討して、結果も作って前に進めていく。3年先、5年先を目指してやるのは今しかないと思っている。

委員

どうしてもタイミングの話が個人的には引っかかる。各委員、急がれている。やっぱり一旦私は振り返りたい。本当に急ぐべきなのか。例えば今、上富小はもう崩れそうだとか、先ほども言った通り、児童がない、来年の新1年生がないとか、もしくは今三芳町がどうしようもなく財政がズタボロで、お金の問題で学校が維持できないとか、もしくは住民から、今回のこの要望の逆パターン、統合させようという住民運動が起きているとかであれば、急いで結論を出そうというのは非常にわかる。ただ、冷静に振り返ると、各委員のご意見として、あとはアンケートの結果として、標準校で学びたいという相当数の保護者の方がいらっしゃるということもわかっているが、地域から統合させるという話があつてのこの審議会ではない。そういう中で、どうしても今回の審議会の中で急いで結論を出さなければいけないという結論に至るのが個人的には少しどうなのか、焦りすぎなのではないかというのがどうしても否めない。全国の例を振り返ってみれば、一番極端な例だと、児童1人の学校がある。これは統廃合になりうるケースだが、校長先生と保護者が偶然教員免許を持っていて、ギリギリまで学校をやって、ある程度いったら、すごく遠いけれども別の学校に行っていたらどうか、レアケースではあるが、地方の方で移住の方がいて、7人児童が確保できるという小学校ができたので、廃校にした学校を一旦復活させるというようなケースもあつたりする。地方では、何としても近くの学校を盛り立てていこうと。当然その7人のケースは、その方たちが卒業したらどうするかというのは見越して、多分このままでいったらその方たちが卒業したらそのまま廃校になるだろうと。ただ、その7人がいる間は、その学校を復活させて維持していこうじゃないかというふうにやっているところもある。一方で、某市のように、あまりにもたくさん学校がありすぎるので、どんどん統廃合して合理的にやっていこうという大きな街もある。これも財政面というよりはちょっといろいろ動きがあるとは思う。その中で本当にこの三芳町で、今このタイミングですごく急いで、少なくともアンケートでは半分ぐらいの方が、今のままでいいと冷静に答えられている。今の少人数でいい。確かに寂しいところもあるけど今のままでいいという方たちが、回答数が50%、全体で考えたら少なくとも25%の方が、今のままがいいと言っているものを、果たしてこの審議会でどんな材料で、あなた達の言っていることは無理だから申し訳ないけどスクールバスを出すから遠い学校に行ってください、標準校になります、いわば環境がガラッと変わります、放課後は、同級生と遊ばせん、スク

	<p>ールバスで帰ってくださいますかというの、素直な感情。そこまで逼迫している状況とはとても思えない。一方で、先ほど委員さんから具体的に統合したいという話が出ているのは貴重なご意見で、逆に言えばそこにも町は対処しなきゃいけない。何度も言っている通り、半分ぐらいの方が大きな学校に行かせたいと言っているの、それを統廃合に関わらず、そういうことを望んでいる人たちが、いわゆる標準校に行けるようなシステムは結局必要になる。きちんとそれに応えようと思えば、学校があろうがなかろうが、もうちょっと大人数のところにうちの子どもたちを通わせたい、遠くなってもいいからという人が具体的にいらっしゃるわけで、同じように今のままがいい、無理がないなら今のままがいいというその方たちの思いにも応えなければいけない。その方法はどういう方法かというのを模索すればいいのではないかというふうに思う。あまりにも数としては、押し切っている数では私はないと思う。これが何の情報もない状態のアンケートであるのは確かだけれども、逆に言えば、単純に今の学校で良いか悪いかだけの話なので、今のままで良いと言っている方に多分情報をどれだけ与えても、今のままでいいという人は変わらないのではないかと。あるとすれば、統合したらすごいことが待っている、藤久保拠点のような最新の学校ができて、英語の教師は10人ぐらいいて、クラスも1クラス10人ぐらいで上富小と変わらずみたいなのすごいことが待っていれば、もしかしたらそういう情報を提供することで、ぜひ統合してもらいたくなってなる可能性はあると思うが、今、審議会の中で出てきた話の中で、私は個人的にアンケートの中の50%の方たちに、統合すればあなたたちの子どもは絶対に今よりも幸せになれると言えない。逆に言えば、私が本当に言いたいのは、今上富小の子たちはそんなにひどいことになっているのか。素晴らしい学校で、先生たちも素晴らしくて、と言っている中で、それでも三芳小に行った方が統合した方があなたたちは幸せになりますと言うということは、今はそれよりも劣っているという話にもなりかねない。そんなような結論を今出せるのか。統合を推し進める材料がない。統合すればサッカーができるとか、個別具体的にはあると思う。野球部ができる、大人数の行事は当然できる。でも、それは小規模校のままでできるのでは。山県方式みたいにやっているところもある。小規模校にもデメリットは当然ある。野球部のチームを作れない。どうするか。周りで作ろう。やってきている。地域移行の話もある。そういったところも含め、今どうしても是が非でもここで結論を出して未来への責任というのは若干違うような気がする。どちらかという、責任というのはこのアンケートの声に町がどれぐらい答えられるか、どんなシステムで答えられるかを考えるのが責任。要望が具体的に挙がってきてしまったので。統合する前から起きている通学距離の問題があるので、そこをどうやって解消するのか。その中で本当に統合でしか解消できないものがあれば、議題の俎上に上げていく。それが本当に今でなくてはいけないという結論が出れば、この審議会でやっていこうとなってくる。そういう順番じゃないかなと思う。</p>
会長	多くの委員からご意見を伺いたい。いかがか。
委員	昨年度4月に着任して1年。欠かさずに行っていることは、毎日、午前

	<p>と午後に教室訪問をして、子どもたちの様子を見ること。昨年度は88人の子どもたちだったので、あっという間に顔と名前は一致させられた。どの子がどんな感じかというのもわかった。コンパクトな学校ということで、本当にぱっと集まってぱっとやれる、そういうメリットはあるし、私のように新しい教員が入って顔と名前が一致できるという、そういうところはとてもいいというのは感じている。日々、少人数でできる強みというか、そういったものも感じている。一方で、小規模だから、どんなに頑張ってもできないことはある。それは仲間との刺激のし合いというか、競い合いというところ。人数が9人や10人という学年だと、学び合いや揉まれるということもあるのだが、この中でさらに細かく言うと、男女比があり、女子2人しかいない、現にそういう学年もある。となると、その2人との人間関係をしっかりとやらないと、上手いこと生活できないということもある。また、自分はあの子と大体同じぐらいだから何とか次は頑張る、追いつくとか、あるいは自分が目標としているあの子みたいになってみたいとか、そういう憧れというものが、人数が少ないとどうしても難しい部分があるということも感じている。人間関係で言えば、1年生の段階でだいぶ人間関係ができていく。2年生、3年生と学年が上がるにつれて慣れていく。例えばクラス替えがあれば、何にするにしても、緊張感をもって発信、表現できると思うが、気心知れている仲間ばかりなので、発言するにしても発表するにしても、やや緊張感に関しては難しいというところもある。その辺、50人でも80人でも100人でも、そのぐらいの規模で毎年クラス替えがあるだけでも、だいぶ緊張感があって、自分の考えをどういうふうにおう、こういう場合はどういうふうに表示しようというのも考えながら工夫してということができるとかと思うが、現状、子どもたちの様子を見てみると、そういうやり方に関しては限界があるというのは正直なところ感じている。</p>
委員	<p>タイミングを私達素人が考えるのは難しいところもあると思うが、現段階で統廃合するかしないかという方向性は、ある程度決めて話し合っていた方がいいと思う。統廃合するのであれば、通学に関してもこういう対策をとるか、少人数から大人数になることに関してもこういうケアを、といった方向性を改めて示してから、また、意見が出るようにアンケートを実施してもいいのかなと思う。現段階で、ある程度の目安、統廃合するかしないかは決めた方がいいと思う。</p>
委員	<p>現場の貴重なお話を伺うことができた。それを踏まえて、まず1点目、このアンケートだが、改めて拝見すると、保護者の皆さんの声としてしっかりと受け止めるべきはバスの件。これに異論を唱える方はいらっしゃらないと思う。バスはもうマストということになってくるかと思うので、そういう点では要望に応えるべきだと思う。活字はインパクトが強いので、非常に恐ろしい。ただ一つ一つ拝見していくと、勘違いされている方が多々いらっしゃるということを強く感じる。常に言っているが、子どものために第一にこの統廃合を考えるべきだということ。なので、先ほど学校がなくなると寂しいという保護者の意見、これは感情的という表現をされていたが、それは置いておいて、子どもに関わる場所は何かなというところ。例えば、教育効果のところを見てみると、地元の人たちとの繋がりや</p>

郷土の勉強が少なくなるためとあるが、統廃合したからといって郷土の勉強が少なくなるということはないはず。各学校では学習指導要領に基づいて学習しているし、例えば三芳町の副読本での学びは、どこの小学校でも行うもの。統廃合によって郷土の勉強が薄くなるということはまずあり得ないと私は思う。それから、行事や畑を体験できる環境が必要なためとあるが、行事や畑を体験する環境というものは必ずなくてはならないということではない。行事は、学習指導要領上でいうと特別活動というところに入るもの。畑は、ここでいう畑が大規模な畑なのか、どの程度の畑なのかかわからないが、小学校低学年の生活科や、そういうところでも、植物栽培、飼育というものをしっかりと扱っている。あとは、大人数が苦手な子どものためとあるが、苦手だからこそ大人数の中で、丁寧に指導していくことが大切だと思う。一つ一つ見ていくと、ちょっと勘違いされているような面も見受けられるので、これをそのまま100%受け止めるというと、体がいくつあっても足りないような状態になるかと思う。その辺のところはしっかりと私達もフィルターにかけて、この結果を見ていく必要があるということを感じた。それが大きな1点目。それから、先ほど来、今決めべきだという意見が相次いでいる。もし決めるのであれば統合なのだと、私は思う。行き着くところは、基本方針。小学校は、多様な考えに触れるとともに新たな人間関係を築き、クラス替えが可能である1学年に2学級以上が望ましい、中学校は小学校と同様にクラス替えが可能であるとともに、全ての教科で専門の教員数を確保できる全学年で12学級以上が望ましいとか、通学範囲も小学校はおおむね3キロ程度、中学校で4キロ程度とある。私、初めにこれありきで申し上げているのではなく、いろいろと議論を重ねたり、または現場の校長先生のお話を伺ったり、各委員の皆さんのご意見を伺うと、やっぱりここに行き着くというのが私の意見。

委員

上富小学校も三芳小学校も公立の学校。今の基本方針、行政がこうあるべきと言っているものには従うというのが、公立校である以上必要なのかと思う。少人数教育、大人数教育、どちらにも素晴らしいところがあると思うが、公立校で出来ないこと、一般で言うと、行政でできないことは民間でやるという世の中。もし少人数校で残すのであれば、私学でやっていただきたい。公立校である以上、やはり標準校で学ばせたい。私も一親としてそう思っているし、そうあるべきなのかと思う。もう一点、子どものためというところからちょっと離れるが、財源の件。財源は以前から話をしたトピックスだと思うが、40数億円の縮減効果があるであろうことが見込まれるということで、今後これから人口減少し、様々なインフラが朽ちていく中でいろんなものを維持しなければいけない。そして、三芳町、国全体の問題であるが、高齢化社会に対応しなければいけないというところで、上富小学校を統合して40数億円が浮くのであれば、それを他に使いたいと上富の住民として思う。あまりそこに踏み込んで話していくと長い話になってしまうが、交通の問題。これから免許返納される上富の高齢者の方々もたくさんいると思う。それをカバーするようなデマンド交通やライブバスの更なる拡充等を、この40数億円でこれからやらなければいけないと上富の住民として思う。全てが叶う世の中ではもうない。何かを削っていかなければ何かを維持できない。みんなが希望するサービス、行政サービス、それが全て叶うのは理想郷だが、残念ながらそういう世界ではない。

	<p>何かを削って何かを維持していく。そのような中で、一住民の視点として、上富小学校を統廃合して、上富地域の様々な福祉、もちろん上富だけではない、三芳町の福祉、高齢者が安心して過ごせるような対策。高齢者だけではなく、身体障害者の方もそうかもしれない。そのようなことに、このお金を使っていただきたいと思う。人によって優先度は違うが、親としては、ここは財源として削ってもいいところなのかなと思う。他に使うところはたくさんある。</p>
委員	<p>各委員のご意見をもう一度確認させていただきたい。アンケートのお話で、反対の方のご意見が勘違いではないかというようなお話があった。郷土の勉強がなくなる等はないというお話だったが、まず、住民の方が直接そういった不安を持っていることに関して、確度が一番高いのは住民の方。地域に住んでいて、その学校でいろんな活動があって、指導要領にある程度ないような活動もされている。分校から考えたら明治から。明治7年からずっとあの場所にあり、文化活動、教育活動を行われてきた中で、その拠点がなくなるということに関して、郷土独特のものがなくなってしまふのではないかという懸念はもっともな話。全国の実例を見ても、学校がなくなれば学校に依存した文化というのはかなり薄まる。うまくケアしているところも正直ある。きちんと危機感をもって、統合されても動けるような郷土のコミュニティがあれば、それは維持できるが、かなりの数の地域で学校がなくなればその学校周辺の文化というのはかなり薄まる。調べればすぐわかる話なので、ぜひ調べていただきたいが、一つ一つがどうこうという話ではないが、このアンケートの具体的に地域の方々が書かれていることを勘違いというようなことで分析するのは明確に間違っていると思うので、できれば訂正していただければと思う。もう一点、縮減効果の話があった。私の中では前回の審議会で、財政面に関しては議論しないという結論が出たと思っている。もし、40数億円の縮減効果の話で議論をするのであれば、その根拠についてこの審議会の中で詳しく議論をし、このような財政面での縮減効果があるという結論が出てからでないと、それは言うてはいけないと私は思っている。なぜなら根拠がわからないから。個人的には、各課の方に聞き、41億円というのは延床面積での建築費用なのかという話もあるが、その合理性とか、今の学校をそのままの延床で建て直すというような積算であれば、果たしてそれが現実的な話なのかどうかとか細かい話はたくさんある。審議会においては、財政面は、考えないという結論が出たと思ったが、もし違うなら、数字に関してはきちんと議論をした上で材料として使うべきだと思う。</p>
委員	<p>私が申し上げたのは、あくまでもこの活字を基にした私の感想。この活字から今委員がおっしゃったような背景は読み取れない。従って訂正はしない。</p>
会長	<p>統廃合の全国事例のお話があったが、地域や地理的問題も三芳町と異なる状況にあると思うので、参考にはなるかもしれないが、一概にそれを事例として取り入れていく、三芳町、或いは上富小学校に当てはまるというふうには私も考えない。資料として手元にあると思うが、令和7年度以降、上富小学校の1年生は、11、13、15、16、5人と予想されている。5人の</p>

状況になると、1学年としての確保が難しい状況、複式学級の可能性も出てくる。ここで豊かな教育活動をというのはなかなか難しいのは確かだと思う。その状況になってから、さあどうしましょうではなく、せっかくこういう審議会があるならば、それは先送りにするのではなく、今ご検討いただいている皆さんで方向性を出すのは、我々、大人の責任ではないかと思う。当然、統合をした方が素晴らしい成果を上げてというのは、教育なので、目に見える部分と、目に見えない部分があると思う。特に人間関係は目に見えない部分もあるかもしれない。それは効果として計り知れないところかもしれない。ただ、少なくとも教育活動だとか、先生がおっしゃっていた教育活動において大人数でしかできない活動という機会を子どもたちに与えるというような部分を考えて、やはり今、将来のために方向性を出し、その中で課題となることを、こうやってクリアできるのではないか、あるいはクリアしなくては駄目なんじゃないかというところを、スクールバスの件も含め、出していただくということでもいいのかと思う。

委員

今のお話で一点引っかかった部分がある。上富小の新入生がもしかしたら5人になるかも、というところで、そこに関して2点。まず、今の人数の推移はあくまでも現時点での住民票での推移で、実際の出もあれば入りもあるという状況の中で、多分一番悲観的なシナリオなのかと個人的には思っている。今の住民のまま減るだけの、流入がないという状況。実際、蓋を開けてみないとわからない部分があるのかと。あくまでも今の住民がそのまま持ち上がりで、一切変動なしという想定なので、若干の増減があるのかというのがまず1点。仮に5人になったとして、どうしても豊かな教育が難しい部分もあるというのは表現としてはその通りだと思うが、何度もお話をさせていただいた通り、いわゆる全国では小規模校がどんどん増えているという現状。集めても集めても、過疎地はもう合併しても合併しても足りない。本当に人口が流出しているところは、もうそういう状況になっている。その中で、当然のことながら国、文科省も、だいぶ昔の統廃合、再編のガイドラインで3分の1を小規模校の運営方法について、地域によって、小規模校を維持せざるを得ない、もしくは小規模がいいといった場合にはどんなやり方があるかというようなことを示している。ちなみに、もう3分の1は復活させる場合。合併するパターン、小規模のパターン、新たに復活させるパターン、これが3分の1ずつ紹介されている。去年も、文科省の方から小規模校でうまくやっている事例発表がホームページにも紹介されている。この基本方針に引っ張られている部分は当然あるが、ある程度たたき台としてはそうだが、基本方針の具体的な数字までこちらに引っ張られていくと、クラスの人数もだが、そこはもうここでずっと議論になっている通り、通学距離概ね3キロみたいなことも基本方針の方では示されている。実際上富で3キロを1年生が歩いているという話があるのはちょっと衝撃だが、そこが本当に適正なのか、なかなかちょっと難しい部分がある。そういう基本方針をベースに進めていきたいと思います。このもかなり乱暴な話ではないか。概ね3キロをOKにすると何が起きるかということ、三芳小学校はちょうど三芳町のど真ん中で、ほぼ全域から3キロ歩けば三芳小に行ける。所沢の方からも来られる。それぐらいの距離が概ね3キロ。過度の負担のないようという付則はついているが、そういったところも含めて、審議会の中で、基本方針に示されたことも含めな

がら、一人一人の子どもたちのためになるかどうかをきちんと議論しなくてはいけないと思う。今、概ね35人以下という話もあった。国のガイドラインの標準のクラスの人数も出ているが、これは別に科学的な知見で決まったわけでもなく、一般的な学校であれば概ねこれぐらいの人数で運営をすればいいという目安が示されただけのもの。当時は文科省ではないが、あくまでもそのとき通達を出した方の体験でというのは、これは国会の答弁でも述べられている。今回の基本方針で出てきたクラスの学級が、明らかにそのエビデンスに従って、これであれば教育的な効果が一番高いというものでは別れない。概ね標準としてはこれぐらいの人数でやっていきましょうと決めるときには、財政的な話もあると思う。いちいち全部が全部、10人の学級でやっても困るよねとか、そういったところも含めて、概ねそういった形でやっていきましょうという、あくまでも目安なので、そこをマストに掲げて、三芳町も必ずそれにしなきゃいけない、それにしたら子どもたちは絶対的に幸せになるというふうに前提を置くのは間違っていると思う。結局この辺の話は今までさんざん議論になったように、結論が出ない。なぜかという教育効果が子どもによって違うので。どういう環境が、一人一人の子どもにとってベストもしくはベターになるかは、その子たちによって違って来る。多くの子は標準校で大丈夫だと思う。大人数で切磋琢磨して、クラス替えもあって、いじめがあったらクラスを変えれば何とかなる、目標になる人もいる、スポーツもたくさんできる。多くの子はこれでいいと思う。ただ、それだけじゃない。このアンケートを見てもわかる通り、少人数校でサッカーは確かにできない。クラス替えもできないかもしれない。場合によっては複式学級になるかもしれない。でもそれが心地いい、安心してゆったりと授業をしたい、中学からはちょっと厳しくなるかもしれないけど頑張る、人数が少なくても、学校が終わった5分後には近所の校庭で遊べる。それがいいという子がいるのは事実なので、どちらの子にも適正な学級がある。それをどちらかに寄せようとするから無理がくる。小規模校でいい、今のデメリットを享受していても小規模校がいいという子を、無理やり標準校に持っていくというのは、どれだけバスを用意したって、バスもすごく弊害がある。実際遅れたらどうするのか。今、雷がなると、学校で守っていただいている。そのときにスクールバスで行っていたらどうするのかとか、細かいことを言い始めたらスクールバスも本当に問題がある。先ほど言った通り、放課後に子どもたちがクラスの子たちと遊べない。それこそ遅刻しようものなら、親も共働きで働きに行っていたら、無理やりでも歩いていかななくてはいけない。何か用事があって帰るときに親が迎えに来られなかったら、多分学校に留め置くとは思いますが、場合によっては帰らなくてはいけないとか、バラ色なわけではない。都会の方はいい。路線バスもあればスクールバスも出ていて、何とか10分待てば帰れる感じだろうが、正直三芳町でそこまでできるとは、現状ではそういう材料は一切ない。むしろ不安材料しか出ていない。一業者がしばらくできるかもという回答をしてくれた。これは明るい未来ではあるが、果たしてそれが10年後、20年後、今先生が足りないと言っている中で、なおかつバスの運転手も足りないと各地で問題になっている中で、三芳町だけがバスの運転手を確実に業者と連携を取って、もしくは、三芳町が雇ってできるのか。二正面作戦。先生も確保しなきゃいけない、バスの運転手も確保しなきゃいけない。どちらかが崩れると学校の運営が成り

立たないという脆弱性が二つになるようなリスクもある。そこを押してまで、先ほど言った少人数制がいい、そこはロジカルに考える人もいる。感情で考える人もいる。ただ少なくとも子どもも親も、今のままがいいという方がおそらく回答しない方を考えても、最低でも25%いる。その方たちに何度も言っている通り、今このタイミングでどうしても統合しなくてはいけない、その理由は何かと聞かれたら、今の議論の流れではこの基本方針になる。何度も言っているが、私は子どもたちに説明したい。統合すればこんなに君たちにとっていいことがある。細かいことはたくさんある。サッカーができる、野球ができる、クラス替えができる。でも、それ以外の材料って今この基本方針だけ。この基本方針ですら、クラスの人数に教育的効果で有意な差がありませんという報告が出ている。そういった中で、今言った細かい野球ができます、サッカーができます、クラス替えができます、加えて基本方針で出ているのであなたたちは少人数校を望んでいても、標準校の学校に合併して遠いところに行ってください、バスは何か出します、でも出ないかもしれませんというのが本当にロジカルな話なのか、子どもたちの幸せに繋がる話なのかというのは、大いに疑問。

委員

意見として、合理化と多様性は結構相反する概念だと思っており、本当にみんなの意見を全部通そうとすると、どうしても全員が全員というのは難しく、世の中は結果的に合理化をしていると思う。だから教育の方針であったり、文科省の定めるものであったりというのも、あくまで大多数というか、方針を定めることによってある程度公共のサービスというのを保っていると思う。その観点から考えていくと、委員のおっしゃることもすごくよくわかる。多様性があるって、みんなが自分の思う通りになるのが一番いいというのはすごくわかる。それこそ少人数制はすごくいいと思っている子がいたら、それは救ってあげたいというのもわかるが、一方で多様性を作っていく上で、どこまでが多様性を保てるのかという限界はあると思っていて、それがあからみんなルールを作っていくと思う。結果的に、それを作ったルールというのが今回の基本方針で掲げられることなのかと思っていて、それはその議論をした上で作ったものであって、全部が全部救えるわけじゃないかもしれないけども、ある程度の部分では救っているのがこのルール。公共サービスを提供するのはここまでが限界ですというのが、ここで定められているのかというのが個人的に思ったこと。それ以上に行ってしまった場合というのは、できればいいんだけどもそこまでは必要があるのかということころは、ちょっと考えた方がいいかと思うし、子どもからしても少人数制がいいと思っているのかどうかというのは正直わからないと思う。子どもからしたら、今いる環境が全て。もしかしたら広い世界ではもっと活躍するかもしれないし、狭い世界でここが一番いいと思っているかもしれないけども、そこを突破することでまた変わる部分もあると思うので、なかなかその視点は難しく、このアンケートも親が答えているものなので、親としては反対、でも子どもはそう思っているかわからないということを考えていく、みんながみんな何を考えているかわからないということを見ると、ある程度の妥協点が必要なのかと思ひ、そういう意味で言うと方針に則っているというのはそんなにずれていない考えだと思うというのが私の意見。

委員	<p> いろんなお話を伺っていて、三芳町って幸せな町だと感じている。というのは、統廃合の話がまずはできるということ。数人しかいない学校の話が出ているが、自分の親友は小学校を卒業するとき1人で最後の卒業生だった。中学校へ行って友達がいっぱいできて、幸せを感じていた。これは地域の問題で、小学校の時は他の学校と統合はできないところにいた。言ってしまうと、島。そこの校長先生は、入学したとき、入学した瞬間に名前を覚えた。これは子どもが少ないから。上富小学校が本当の意味の小規模校と言えるかどうかは別だが、今現在、いいことがいっぱいあると思う。だけど、全国的に言うと5人とか7人しかいない学校というのは、地理上の問題があって、どうしても解決ができないところ。後でじっくり調べてみてほしい。私の友達の1人というのは、増やそうと思っても、その地域にはもう子どもがいない。最近増えているのは、そういう学校に希望があって、違うところから来て、子どもが7人になったり10人になったりしている。小規模校のいいところを目指している親子が、そこへ来ている例もある。だけど、統合しようと思っても、統合できない地域もいっぱいある。三芳は早すぎるという意見もあるが、確かにそうかもしれない。できるだけゆっくりの方がいいと思う。だけど、教育の基本があったり、いろんなルールがあったりする中でやっていくには、それなりの時期とか条件とか、初めから条件がついている話でもあるわけで、感情論だけで決める話ではないので、やっぱりそういう取り組みがある中で進んでいく、それが基準になると思う。ということで、何回も言うが、早い時期、5年後を目指すのであれば今、決めて進んでいかなきゃいけないと思う。ただ、猪突猛進でやるのではなく、地域のことも考えたり心のケアもしたりしてやっていくのは、これは当たり前のこと。早くまとめて、早く答申を出して、審議を前に前に進めていきたいと思う。 </p>
会長	<p> いろいろな意見が出されている。アンケートで50%、50%というところもあるが、ここで方向性を決めてその上でどのような形が考えられるかというところを洗い出していくことが必要ではないかと考える。来年どうしようという事ではないと思うので、今後数年かけ、まずは小学校を統合していくために必要なことは何かということ、この審議会でもたご意見をいただくという方向性だけは確認しておきたい。いかがか。 </p>
委員	<p> 大前提の確認をもう1回させてほしい。先ほどから基本方針の話が出ていると思う。基本方針に沿っての話に、適正規模適正配置報告書が出ている。この中身も全て含んだ上でたたき台にするのか、その後の基準の数値も含めるのかで、私はまず議論が変わってくるかと思っている。まずそこを確認させていただきたいのと、今この時点で上富小を統合したらどうなるのかという方向性というのは非常に反対で、何度も言っている通り、今この現時点で上富小が統合されるべきだというふうな流れになったと理解していない。何度か各委員から、例えばインフラとして維持できないみたいなお話も出てきたり、前提条件が全然まとまっていないと思う。私の中では、財政面は基本的には関係ない。あくまでも教育効果だと。子どもたちにとっての話だけで財政面は関係ないと、この前決まったと思ったが、学校の維持、インフラ面で難しい、財政面で難しいみたいな話が出てくるのであれば、そこはきちんと議論をして定まってから上富小をどうし </p>

	<p>ましようかだと思う。縮減効果があるからやるのか、なくてもやるのか。教育的効果でいくのであれば、一委員として統合に効果があるというふうに明確に感じていない。そこに関してきちんと議論をして、納得させていただかないと、さらに先の段階、具体的の上富小学校の統合で話を議論していくということに関しては明確に反対する。</p>
委員	<p>財源について先ほどから出ているが、財源に対して議論しないということになったのかどうか、ちょっと議事録の読み込みが甘かったのかもしれない。もしそうなのであれば、また考えを変えさせていただきたい。もう何回もやってきていて、ちょっと閉塞感を感じる。一步進んでいただかないと、このまま2年の任期が終わると思う。これ以上、その一步を踏み出す前に議論をして何が出てくるのかと、これも本当感情的な気持ちだが、非常に微妙なところがある。ここは会長に、ある程度の方向性を促すようにしていただければいいのかと。</p>
会長	<p>まず委員から出ていた、どこをベースにというのは、教育委員会から出された町の適正規模適正配置に関するものは、一番のベースになると思うので、そこはひとつ。そこも含めて、一つの方向性として上富小を統廃合していく。その中で課題部分を検討いただくという方向性だけは出したいと思う。それぞれのご意見もあると思うが、皆さんから伺った中ではそういう意見が多かった。今後話を進める上では、方向性が定まった上で、今後の課題について意見をいただくという方向で審議会をやって行きたい。いかがか。</p>
委員	<p>もう一度だけ確認したい。教育委員会の基本方針と言っているのは、この報告書も含めてということか。学級の人数や距離、いろいろと数字が出ているが、その辺も含め、大方針だけではなくて、細かい条件、距離とかクラスの人数ということだと、何度も言っている通り、審議会においてこのクラス人数であれば教育的効果が非常に高いというような結論が出るような議論はされていないと認識している。また、適正配置の小学校おおむね3キロとか、中学校はおおむね4キロというような距離に関しても、各委員の中で合意がとられたというふうには決して思っていない。その中で、これをベースに上富小の統合の流れで議論していきましょうというのは私は違うと思っているので、この前提条件の部分も、再度議論をさせていただかないと。各委員の中で、ある程度の合意が得られないと先ほどの財政の話も、細かい報告の方には、ある程度財政の話、ある程度の金額の話も出てきているので、そうすると今までの審議会の流れと逆行して、財源の話も込みでとなるが、そこはきちんと議論をしなければいけないと思う。</p>
委員	<p>確認だが、財源の話はちょっと置いておきましょうということで確認があって、今の状況になっている。それを確認しておきたい。この後で出てくるかもしれないけれども、とりあえず今のところは置いておきましょうと。その背景にあるのが、財源の話でずっと時間を費やしてきた。そうではなくて、もう少し子どもを軸にした話し合いをしていきましょうということで、今がある。これはもう、ここ2、3回の会議の中での話。今、参</p>

事務局	<p>考資料の報告書も含めて検討するの否かというお話があったが、私の中での印象としては、53ページの箱2つ、小学校のおおむね3キロなどがベースになるという認識。おそらく、ここがいろいろな印刷物で出てきている気がする。ここの部分だけが集約された文書はなかったか。</p> <p>基本方針と報告書は別物。お配りした参考資料に乱丁があったと以前お伝えしていたかと思いましたが、基本方針は、36, 37, 53, 54ページ部分。38から52ページまでは三芳町小中学校適正規模適正配置報告書で検討委員会から出していただいた答申。混乱させてしまっていて申し訳ない。</p>
会長	<p>検討委員会の答申内容については、この場で議論するものではない。これは、検討する一つの資料というかベースにあたるもので、ここでこれを審議するというはあり得ないと思う。</p>
委員	<p>基本方針の方がシンプルに4ページということで、議論をしやすくなった。先ほど委員からあった通り、もし財政の話が後から出てくるという可能性があれば、基本方針に載ってはいないが、俎上に出してもいいのかというのはまず感想としてある。この4ページの、特に53ページの適正規模、適正配置はそれぞれ1個ずつ、一つ一つのテーマとして議論をさせていただいてからの上富小の話かと個人的には思う。先ほどもお話しさせていただいた通り、おおむね3キロが正しいとは正直思っていない。3キロは三芳町全域。三芳町全域が三芳小に歩いてきても大丈夫という指針になっているので、そういったところから考えても、きちんとこの適正規模と適正配置に関しても、一旦審議会の中で、実際どうなんだというところを議論した上で、この方針なのか、もしくは別の方針なのかかわからないが、それに従って上富小に関して判断しましょうというのが議論の流れだと思う。</p>
委員	<p>適正規模適正配置については、前回の検討委員会で話し合われた結果のものだと認識しているが、そういった認識でよいか。</p>
会長	<p>はい。</p>
委員	<p>なので、ある程度の指針はこれで決まっていると私は認識している。</p>
会長	<p>私も同様の認識。ここに当てはまるとか、当てはまらないとかという議論はここではもう必要ないのではないかと考えている。先ほどから申しているように、今後、実際に上富の子たちが三芳小に行くということになれば3キロを超える。3キロを超えるのであれば、適正距離にはならないわけなので、スクールバス等の手当を講じていかななくてはならないのではないかと思う。</p>
委員	<p>確認だが、この審議会においてかねてより、標準校のメリットデメリット、小規模校のメリットデメリットを議論してきたつもりだが、今の話だと、結局それはもう一切関係なく、この適正規模と適正配置で話を進めるというふうに感じてしまう。あくまでも、議論のベースになる最初のたたき台で、これが10キロとか1キロとかあったかもしれない。何もないと何</p>

	<p>も話ができないので、基本方針を教育委員会の方で定め、それを参考にこの審議会ですらに揉んでいくというふうに思っていたが、今の話だと、基本方針が絶対で、それに従ったら上富小はどうですか、と。そうしたら審議会の意味はほとんどない。1学年2学級で3キロで、という数字をそのまま当てはめるのであれば、こんなに審議委員を集めて2年間も議論をして、結論を出す必要がいったいどこにあるのかと個人的には思う。やはりこの審議委員の一人一人の経験や知見や、貴重な意見を議論させて、こういった基本方針が出た上で、一人一人の子どもたちがこの方針に沿って、例えば具体的に統合したら、本当に全員幸せになるのか、それで不利益を被るのは1人なのか2人なのか50人なのかということをしちんと具体的に考えていかななくてはいけないと思う。そのためには、別に何もかも反対とかでなく、この適正規模や適正配置に関しても審議会の視点で、ある程度きちんと議論をして、この方針で大丈夫だよねとか、若干ちょっとこの方針のある程度の部分はこういうふう読み替えて考えていこうとか、そういうふうにするのがこの審議会の意義だと思うが、いかがか。</p>
<p>会長</p>	<p>基本方針の中身を検討して、おかしいから変えましょうという話にはならない。逆にはいけない。これも一つのベースとして、例えばクラス替えができる2学級以上という条件を考えていく上で、人数だけではなく、教育内容、教育活動について、メリットがある、あるいはこういう点は心配なのでちょっと教育活動を統合後も検討して行ってほしいというようなものを答申としてまとめていくのが、この審議会かと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>基本方針が出された背景というのが前の委員会であると思う。そこで議論されて出てきたものなので、これは私も議論の余地はないだろうという感触。一方で、委員が先ほどからお話されている、だったら最初からこれでよかったじゃないか、今までの費やした時間はなんだったのかという趣旨だったと思うが、先ほど発言したときにも申し上げたが、結果としてここに今たどり着いた。いろいろとこれまで議論した。財政面も含めて、子どものためにどうしたらいいのか等含めて話し合った経緯がある。そして、今日、統廃合をするのかしないのか。今日決めた方がいいという大多数の意見がある。今じゃないだろうという委員もいるが、そういう大多数の意見があったならば、今までのことを踏まえると、統廃合という結論になるのではないかというのが先ほど申し上げた意見。聞いていると、この適正規模適正配置の基本方針に行き着くと私は思った。私だけの意見が反映されているわけではないと思うが、それがあって今この基本方針が土俵に乗っているのだと思う。議論するならば、概ね3キロ程度とある。この概ね3キロ程度はもうこれでいいと思うが、「概ね」とあるので、この辺をどの程度幅を持たせるのかとかは少し議論の余地があるかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>なぜ基本方針に対してこれだけ話をしているかというのと、皆さん具体的にイメージしていただきたいが、子どもたちに説明しなくてはいけない。なぜ君たちの学校が統合されるのか、もし仮に統合する方向で行くとしたら、具体的に説明しなくてはいけない。でも今上がってきている材料は、基本方針があるからにどうしてもなってしまう。例えば、この適正配置に関しても、足立区で同じような話があった場合には、小学校の歩く速度か</p>

ら何から何まで根拠が全部出ている。例えば分速40mだから概ね30分、どれだけ遠くても30分は我慢して歩くと最大1.2キロ、のような。合っているかどうかは別で、それが適正かどうかというのは全く別の話だが、少なくとも根拠は書いてある。判断ができる。そういう経緯で、その数字がここに載ったのか、と。そういったものがないと、何度も言っている通り、子どもに説明できない。基本方針で3キロと決まっているから統合するんだよとか、基本方針で1学年2学級以上と決まっているから統合するんだよとは言えない。それであれば、数字だけでいい。ここで必要なのは、今までの議論でたくさん具体例が出てきている。これこれこうだから2学級以上じゃないと駄目だと考えている、ということでもいいと思う。それが正しい、正しくないではなくて、まず、そこら辺がきちんとここに載ってきた上で、審議会としてそれがいいのか悪いのかとかいう話はまた別で議論があると思うが、まずそこがないと、どうしても今この書類だけを持って子どもたちに説明しなくてははいけない。直接的でないにせよ、この審議会に参加しているということは、もしくは統合するという方向性になったとしたら、子どもたち、なんでうちの学校統合しなきゃいけないの、となったら基本方針で決まっているから、1学年2学級以上、距離は3キロと決まってるから。これじゃ子どもも保護者も納得しない。そこは感情の話ではなくて、まずロジックが通っていない。なぜかと言うと、今数字しか出てきていないから。だからこの1学年2学級以上のエビデンスとか、経験とかをきちんと文書でどんどん残していくべきだと思う。その結果、本当に納得して、やっぱり標準校じゃないと駄目なんだとなればそれは合併だろうし、いやいやなかなか難しい、標準校にすればいいというわけでもないねという話になれば、もしかしたら上富小の統合はもう少し待ちませんかという話になるかもしれない。この適正規模を出した根拠やエビデンスが載ってこない、ここから先には進めない。審議委員としては、子どもたちに言えない。具体的にイメージしてください、子どもたちになんて言うか。筋が通ればいいと思う。すごく素晴らしい未来が待っていれば、いくらでも言える。先生がいっぱい増えて、サッカーもできて。今はこの方針に沿っていくという話しかないの、それはもうちょっと議論と言えないと思う。なのでその根拠の部分とか、実例の部分、ぜひ次の段階で、議論させていただけたらと思う。

委員

子どもにどのように説明するのか、これは大事な視点だと思う。ただ一方で、子どもに説明するときに適正規模適正配置でそうなってるから、というような先生はまずいない。いたら問題だと思うし、ちゃんと子どもに伝わるように、それこそ保護者アンケートの中にもたくさんヒントは出てきている。多くの友達といた方が、みんなで話し合っ、みんなで大きな問題を解決することができるんだよ、1人だと何もできないよね、でもたくさん人が集まるからみんなで問題解決できるんだよね、とか、運動会だったたくさんいた方が楽しいよね、とか、いろいろなことを子どもたちに伝えることはできる。なので、それはそれでまた次の課題として置いておけばいいと思う。先ほど会長もおっしゃっていた、とりあえずスタンスを決めましょうと。例えば統廃合するとか、もしするのであれば、それに伴って課題が出てくるだろうから、その課題について、次回以降話し合いましょうというのが先ほどの趣旨。その課題の一つになるんだと思う。

委員	<p>子どもに話す必要があるかないかというところで、まずちょっと親としてはどうなのかと思っている。保護者には絶対説明しなくてはいけないと思うが、子どもに対しては、伝え方によって子どもの受け取り方が変わると思う。それは大人がどう伝えるか、喋り方、書き方によって子どもの受け取り方が変わってきてしまう。それを真に受けるのはいかがなものかというのは思う。まず子どもに説明するにも、一応決定ではない、とりあえずそっちの方向に進んでいるということで方向性を出さないと、説明もできないと思う。親の立場、PTAという立場からかなり思いつく限りのことを言わせていただいていたが、決めていただきたいと思う。</p>
委員	<p>子どもを納得させるうえで、逆に、こういった適正規模適正配置の数字は子どもでも納得できるのではないかと思う。1学年2学級以上だからというのは、子どもでも理解できる。何の感情もなしに、この方針があるから仕方ないという理解もできるのではないかというふうには思う。</p>
委員	<p>適正規模の話はちょっと置いておいてという話が過去にあったが、この適正規模適正配置の基本方針というのが町で決まっているということは、歴然とした事実。それを今この審議会で変える必要は全くないし、変えるべきではないと思う。だからといって、一方的にこれじゃないと駄目だからというふうに子どもに説明する必要もなければ、説明するときは、この審議会だけ、私が参加しているだけでもこんなに分厚い資料がある。その中で、この資料以外にも話し合いをものすごくやってきている。それを事務局の方でまとめていただいて、学校長とか教員の皆さんとよくコンタクトを取って、子どもたちにうまく説明していけば、説明する必要があるものはしていけばいいことであると思う。いずれにしても、今まで長い時間かけたのは決して無駄ではなかったと思う。いろいろな資料があって、いろんなことを教えてもらい検討し、子どもが第1で子どものことを考えながら進んできたと思う。そういうことで、いずれにしても、もう本当に早く、今日決めなくてはいけないというのではないかもしれないけれど、早く前に進んでほしいと思っている。</p>
会長	<p>ご意見をたくさんいただいた。先ほども申した通り、方向性としては、上富を統合していく方向性を打ち出したいと思うが、いかがか。</p>
委員	<p>やはり今の議論の中でも、経緯の話しかないとと思っている。子どもに説明というのはある程度例え話だったのでふさわしくなかったかもしれないが、要は子どもでもわかる理屈がきちんと通っているかという話。どう説明するかではなく、先ほど、委員がアンケートにはたくさんのヒントがあると。本当まさにその通りだと思う。なぜ、1学年2学級以上でないといけないかというヒントがたくさんこのアンケートの回答には含まれている。同じように、なぜ小規模校を望んでいるのかというヒントもたくさん入っている。皆さんどうしても議論が偏りがちだと思う。この審議会にあたって、私は個人の声をほとんど入れていない。個人の意見は結構あるが、こういうアンケートとか、実際に聞いた意見等々で、この審議会がフラットになるように、もっと言えば子どもたちに対してフラットになるよ</p>

	<p>うに審議をしようと思がけている。私はたくさん喋っているが、その中で、明らかに審議の内容で小規模校のメリットを議論できる時間がない、材料がないと感じる。皆さん標準校のいいところはたくさんおっしゃっていただけのが、そうでない場合のメリットはあまり出てこない中で、基本方針に沿って、この書類だけ見れば根拠がわからないものに則って、統合の方向で議論していきましょうというのは、子どもにとって不誠実じゃないかと感じる。そこに関しては徹底的に議論をして、今この中身、本当に全部が全部、1学年2学級以上でないといけないのかということも含めて、何度も言っているが、標準的な学校はこれでいいというのは私も何の異論もない。多くの人たちはこれでいいということに関して何の異論もない。私が声を大にして言いたいのは、そうではない学校が適正だと思うお子さん、保護者の方たちが一定数いらっしゃる中でどうするのかということきちんと議論していかないといけないと思うので、その議論をすっ飛ばして前に進めるのは、やや乱暴ではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>同様に、少人数の学校ではない方がいいという子どもも親もいる。どちらをとということにはならないが、ではどちらがより良いかということを考えていく中で、皆さんの中では統合の方向性を出して、そこで課題を解決するものを見つけていった方がいいというご意見だったと思う。そういう方向でいきたいと思う。多くの委員が頷いていらっしゃるが、今後、子どもたちに説明をするということもあった。統合して大人数になったときにはこんな活動ができるということは示していかなければいけないが、それが数値的にどうなるかというのは測れるものと測れないものがあると思う。なので、こういう観点が我々としてはより良いだろうということで、地域の方や保護者の方、子どもたちに説明できるものを作り上げていけば、答申として出せるものになるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>議論を前に進めたいという話なので、その前に基本方針の枠の中の根拠。どういう検討委員会での議論があって、もしくはどのような根拠で、この方針が決まったかというのをを出していただきたい。それが出た段階で、前に進むかどうかを判断させていただければと思うがどうか。</p>
<p>会長</p>	<p>それについては、報告書をご覧ください。そのための資料。</p>
<p>委員</p>	<p>報告書は読んでいる。この1学年2学級以上のエビデンスが示されている報告はないと思うが。</p>
<p>会長</p>	<p>お話できる資料はここにあるもの。審議会の基本方針の策定に当たってというところから、話し合った経緯、アンケート結果があって、それをもとに出てきたもの。</p>
<p>委員</p>	<p>明確なエビデンスや根拠がないというお話だと思うが、それを用意していただくことは可能か。</p>
<p>会長</p>	<p>代わる資料はない。</p>

委員	<p>そうすると、どうしても議論が戻ってしまうのだが、これをベースに議論をさらに前に進めていきたいと思いますというときに前に進める根拠はやはり薄い。すぐにこの枠の中に関する根拠が出てくれば、ある程度信頼性がありそうだという話で進んでいけると思うが、一旦これが今までの議論や前回の検討委員会の議論を持ってのもの、ただだとわからない。審議委員が分からなければ誰もわからない、この適正規模適正配置の根拠が。そんなものを前提に進めていくのはいかがなものか。そこは用意すべきだと思うが。</p>
委員	<p>令和4年のアンケート実施結果に基づいた結果かと私は認識していたが。これが基になるのかと私は思っている。</p>
会長	<p>今の委員のお話とここまでの話にもあったとおり、この審議会でこの中身を検討していく必要はなく、この審議会が開催される時点で報告書が出ている。これに則り、今後の三芳町の小中学校をどうしていくかを考える上で、数字だけではめて統廃合だということではなく、統廃合をしていくにはどのような課題があるか、メリット、デメリットについても一度皆さんで出し合いましょうということでこれまで長い会議時間を使って検討してきたので、小規模校のデメリットあるいは小規模校のメリットも議論をしていないということはない。</p>
委員	<p>今、数字だけではないと会長にもおっしゃっていただいた。そういった場合には、逆に言えば判断する際に数字以外の材料が必要になってくる。それは何かと言うと、先ほど言った根拠とか、エビデンスだと思う。数字だけではなく、機械的に判断するわけではないという話であれば、当然この背景がわからないと私達も判断しようがない。なので、検討という段階ではなく、今資料が足りない状況だと思っていただきたい。これを基に話を進めていくに従って今資料が足りない。報告書はついているが、私はどれだけ読み込んでも、この報告書から枠の数字になる部分と接続されてる部分がわからない。なので、委員としてはここに関しても、検討委員会のエビデンスや根拠もしくは議論の過程でもいい。抜粋していただくなりして、これが決まった経緯や根拠がないと、ちょっと難しいと思う。先ほどアンケートの話もあったが、根拠がアンケートという話になってしまうと、逆に言えば今回アンケートについて、さらに最新のものが出たわけなので、このアンケートは尊重しなければいけないという話になると思う。その点も含め、ぜひ1回議論をする前に、次回の進め方等に関してもまとめるべきではないかと思う。ここで、もう残り何分とかで前に進めましょうというのは、やはり乱暴で、ぜひ何が今、前に進むためには必要なのかの議論を1回挟んでいただきたい。</p>
事務局	<p>今課題に挙げられている点についてのご説明だが、資料の62ページ以降に、昨年度、それぞれ保護者、教職員、それから学校運営協議会、地域の方等からアンケートをとり、結果としてまとめている。これをもとにして協議をいただき、適切な学級数というところでは出されている。この辺りが大きな根拠になるかなと思う。</p>

会長	<p>これまでもこの場で、エビデンス、数値的なものではないけれども、大規模校のメリット、デメリットも十分議論してきたと思う。また、小規模校のメリット、デメリットというのも、時間をかけて議論してきたのではないかと思う。委員が思っているところ、理解いただける、理解いただけない部分もあるかもしれないが、もうここは時間をかけて議論してきたと考える。</p>
委員	<p>議論をしてきたのは間違いない。逆に前に進む前に、それを一旦資料にまとめていただきたい。文章の形になって、各審議委員の方にそれを持っていただき、客観的に判断できる資料として作っていただいて、それをもって前に進めるかどうかという議論をするべきではないかと。どうしても口頭での話のみだと、やっぱり今回の審議でも、当然私も記憶違いもあるだろうし、思っていた前提条件がそれぞれ違うなどもあると思うので、一旦ここで議論、審議を一段階進めようというからには、これまでの審議内容のまとめ、議事録は当然あるが、それとは別に、これこれこういう状況に今なっていて、これをもって議論を前に進めたいですという資料を提示していただければ、多分次回でそんなに時間をかけることなく議論できるのではないかと思うが。</p>
委員	<p>貴重な意見。だが、今まで議論してきた結果はここにある。これを1ページや2ページにまとめる必要は何もないと思う。特に基本方針を議論する話が出てきたが、町長や議会の決裁があり、町で決めた方針の話を通り返すというのは、これは我々の与えられた義務でも権利でもない。この議論はすべきではない。これは、過去にはっきりと決まったこと。だからといって、それだけに基づいてやれとは話していない。これはこれで決まっている資料としてもらったが、さてそれで皆さんでどうしましょうかと、今までいろんな議論をしてきたのだと思う。これまでの議論をもとにして、これから立ち止まらないで、前に進んでいきたいというふうに自分は思っている。早く決めて、目標を一つにし、できれば全会一致で行きたいところだが、いずれにしても皆さんいろんな意見を持っているのは確か。だが、みんなで判断して、それで1日も早く無駄な時間を過ぎさないようにやっていくべきだと思っている。</p>
委員	<p>委員から大事な話があったので確認をしたい。基本方針と検討委員会の報告に関して、これは町や議会は関係しているのか。私の認識では、教育委員会の中で検討されて審議会の方に下りてきているという認識。事実確認をお願いしたい。</p>
事務局	<p>報告は町と教育委員会にいただき、教育委員会で方針を出したものの。</p>
会長	<p>検討委員会の検討結果は、町長と教育長に報告している。それに基づいて、教育委員会の方で方針を立てたという経緯。では、多くのいろんな意見、もう少し時間をという意見もあるが、ここまでの経緯を踏まえ、方向性は出すことに決定したいと思う。先ほどの確認の通り、上富小学校に関しては統合の方向性を出し、その中で様々な課題、さらにはメリットも皆さんの方で確認していき、それを文章にまとめていくというような次の段</p>

	<p>階に入っていくということによろしいか。</p>
委員	<p>賛成。委員の皆さん、いかがか。</p> <p>(賛成の声多数、反対の声1名有)</p>
委員	<p>賛成ではあるが、少人数の方がよかったという場合、大人数で適応できない子どもたちのケアをしっかりとっていく、という話は入れていく必要があると思う。</p>
会長	<p>全会一致ということにはならないが、皆さんの意見をいただいたところで、今後の本審議会の方向性としては、上富小学校の統廃合に向けた様々な条件、その辺をピックアップし、先ほどのスクールバスの件一つとってみてもいろいろとあるが、ご意見を頂戴していきたいと思う。併せて諮問には、それ以外の学校、竹間沢小学校、中学校のこともある。順次そちらの方もご検討いただけるよう、事務局は、次回、資料の準備をお願いしたい。</p> <p>長時間にわたり、慎重審議いただき、感謝申し上げます。ここで、協議部分は終わりにさせていただきます。</p>
	<p>4 諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回の審議会日程を【5月21日(火)17時30分～】とすることについて確認。場所は追ってお知らせすることとした。
	<p>5 閉会</p>